

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2394800011 | | |
| 法人名 | 株式会社 ヒビキ | | |
| 事業所名 | グループホームひびきの家豊明 (ユニット1) | | |
| 所在地 | 豊明市沓掛町東門22-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年 1月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年10月15日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kajokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2394800011-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 中部評価センター | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F | | |
| 訪問調査日 | 平成24年12月18日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームのいい場所より、公園の緑をながめ、春には桜を楽しみ、すぐとなりの乗馬クラブの馬を見ることができ、のどかな環境の中で、のんびりとその人らしい生活を送っていただいています。今年4月より増設ユニットの営業が開始されました。増設ユニットではリフト浴を設置し、より安全で快適な入浴サービスの提供が可能となりました。大家族になりましたが、1人一人の状態に合わせたキメ細かい介護を行いたいと考えています。昨年度に引き続き、常勤の薬剤師による服薬管理体制・常勤の柔道整復師の監修のもと、より質の高い機能訓練を提供していきます。スタッフも家族様の愛情に負けない気持ちで支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年、2ユニットへ増床し、地域交流を目的としたスペースもホーム内に作る事ができた。地域交流スペースでは、認知症サポーター研修の実施等の新たな試みを実施している。また、柔道整復師が質の高い機能訓練を利用者個々に実施しており利用者の機能回復に努めている。
管理者と職員の信頼関係が厚く、課題・問題点への対応が職員全体で取り組まれており、今後も事業所が地域にとっての地域資源となるように、より深く地域に根ざした活動の継続を期待するところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホーム内に浅田次郎著「終わらない夏」から引用した文を掲げ、事業所の理念として実践している。 | 職員だけではなく来訪者にもわかるように、玄関に浅田次郎著の「終わらない夏」から引用した理念を掲げている。職員は常に理念を念頭に置きながら日々の支援で実践をすることができるように努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に参加し、町内の行事夏祭り等に参加している。町内子供会による獅子舞などがホームに回ってくれるようになった。今後、ホームにおいて地域の方と交流ができるような行事を取り入れたい。 | 認知症サポーター研修の実施や、地域の中学校の職業体験の受け入れ等を行いホームの活動の理解を深めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方との交流を通して、利用者様の暮らし等を知って頂き、理解を得るようになってきたと思う。今年度は行政の講師を招いて、「認知症サポーター講習会」を実施し、認知症の理解・啓発を行った。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者様の日々の生活やケアについて、又、ホームの行事、事故報告などを行い、家族様はじめ出席者の方から色々な意見を頂き、施設運営に生かしている。 | 2ヶ月に1度実施をし、利用者の状況やホームの行事等の報告を行っている。家族からは介護保険制度に関する質問や、ホームに対する要望等様々な意見交換の場となっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市役所に赴くようにしている。市担当者から、介護福祉事業などの情報提供をして頂いている。その情報は回覧で全職員へ周知している。 | 市が行うボランティアポイント制度に参加をし、大正琴演奏やピアノ演奏等様々なボランティアの受け入れを行っている。また、困難事例、疑問等がある場合は、相談、指導を受けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 代表者、職員全員が身体拘束をしないケアを学び、また、具体的な行為について正しく理解してケアに取り組んでいる。 | 施錠等は行わず、利用者の自由な生活を支援している。訪問調査当日も利用者は自由に、ユニット間の移動や部屋への移動をしていた。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 積極的に勉強会等を開いてはいないが、日常のケアにおいて虐待の防止等の情報をもとに話し合いの場を設けて虐待防止の徹底に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 今年度、研修会に参加する機会をもてた。また、行政施設等の担当者とお話する機会があり、制度等への理解が深まった。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居申込・本人面接・契約の段階に応じて話を伺い、説明を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族様来設時に利用者様の生活等について近況報告を行い、意見要望をいただいている。 | 家族来所時に、日々の生活状況等の報告を行い意見・要望の聴き取りを行っている。また、年4回発行する家族だよりの発行や、HPで行事の様子等を情報発信している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者は直接職員より意見や提案ができるよう心がけている。申し送り帳・アンケート用紙等を用いて意見、提案、要望等を問いかけたり聞いたりしている。3ヶ月に一度全体ミーティングの機会を設けている。 | 年1回代表者との面談を行い、職員が直接代表者へ意見、要望を言えることができる環境を構築している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は頻繁に現場に来ており、個別職員の業務状況などを把握している。また職員が働きやすいように職場条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修に情報を収集し、職員の段階に応じて受講できるよう計画を立て実施している。また他の講習会等も回覧し、希望者を募ったりしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 定期的な交流の計画はないが研修会等の参加により交流する機会をつくり、サービスの質の向上を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前面接での本人様からの情報収集は大切にしており、そこで得た情報は全職員が共有し、入居時の不安やストレスを少しでも軽減させるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 特別な対応が必要な方には可能な限り柔軟な対応を行っている。こちらからの提案と利用者様・ご家族の要望を考慮して意思疎通を行いながら介護にあたっている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 支援する側、支援される側という意識は持たず、お互いが協力し合い和やかな生活ができるよう、場面づくり、声掛けをしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 常に一緒に本人様を支えていくことを大切にしている。家族様の協力によって成り立つものと考えているため、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けホームのこのような姿勢や考えをお伝えするようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族様や友人知人の来設時はホーム全体で歓迎し、楽しい時間を過ごしていただけるよう心掛けている。 | 地域の喫茶店への外出や、家族協力での外出・外食等を支援し、利用者の馴染みの場所、人、習慣の継続に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士の関係について、情報連携し、全職員が共有できるようにしている。また、心身状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので注意深く見守るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後に電話で近況報告や面会、直接お会いしてお話することもある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の生活や会話の中から本人様の思いや希望等を感じ取り見つけ出し把握するようにしている。利用者様から自発的な表出が難しい場合には職員側からアプローチする等、一人一人に合わせて工夫している。 | 職員が利用者に寄り添い、したいこと・食べたいこと・行きたいところ等の要望の聴き取りを行い、聴き取ったことはすぐさま日々の支援で実現をしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の面接での情報収集、家族様に作成して頂く情報提供書を基に把握している。また利用者様本人との会話から得ることもある。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 1日の様子を介護記録または介護詳細記録に記録し、全職員が把握し情報の共有ができるようになっている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎日の生活の上で、全職員が気付きとして出し合う、本人様より得た希望や家族様からの意見・要望を反映させ本人様に適した介護計画になるように配慮している。サ最近ではご家族から要望を頂ける機会が増えてきた。 | 6ヶ月に1度見直しの機会を持ち、計画作成担当者は職員からの意見を聞き介護計画に反映をさせている。また、柔道整復師が機能訓練計画を立て、計画に基づき支援を行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録に利用者様一人一人の体調や出来事、声等を記録している。また各利用者様の介護記録の実施状況をみて介護計画の見直しをしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人様、家族様の状況に応じて通院等の必要な支援は柔軟に対応している。運営者(代表者)が薬剤師であるため薬の管理は対応できている。また看護師、准看護師により健康管理が対応できるようになっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議案において民生委員の方、また、地域の方より地域に関する情報(行事等)をいただいている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人様や家族様が希望するかかりつけ医となっている。また通院や受診は本人様や家族様の希望に応じて対応している。基本的には家族様対応をお願いしているが不可能な時は職員が代行している。 | 協力医療機関の往診や、利用者・家族の希望するかかりつけ医の受診を行い、利用者の健康の維持管理を行っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師を配置しており、利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護師がいない時は、介護職員の詳細記録等を基に確実な連携を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された場合には出来る限り面会に行きたいと思っている。退院後、家族の了解を得たうえで、情報提供・医療機関との連携を図りたい。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人様や家族様の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り安心して納得した最期を迎えられるように意思を確認しながら取り組んでいる。 | 利用者・家族・医師・職員とが話し合い、利用者・家族が安心することができる方法を模索し、支援を行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者様の急変や事故発生に備えて、全職員に応急手当や初期対応の訓練を実施している。今後、勉強会の機会を増やし急変時の対応がしっかり行えるようにしたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回(4月・12月)、消防署の協力で避難訓練を行っている。 | 定期的な避難訓練を実施し、非常災害時には利用者を迅速に避難誘導をすることができるように努めている。今年は、夜間を想定した訓練を行った。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 本人様の気持ちを大切にし、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするよう努めている。 | 利用者の個性を十分に認識して、誇りやプライバシーを損ねないように対応をしている。気づきは職員間で共有をすることで、どの職員でも対応をすることができるように努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人ひとりに合わせ、本人様が答えやすく選びやすいよう働きかけをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。(食事と入浴時間はおおまかな日課となっている) | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 理美容においては、2ヶ月に1回ホームに来てもらっている。衣服については、基本的には本人様の意向で決めていただいている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様の食べたい物を毎日ということとはできないが、誕生日等行事において希望を聞いたり一緒に作ったりすることもある。 | メニューを利用者の希望を聞いたり、職員の得意料理を手作りで提供している。また、誕生日や行事食では、利用者の好物をメニューに加えている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量(栄養摂取量)や水分摂取量を個人に合わせて確認できるようにしている。定期的に体重測定も実施している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、自分で出来る方には声掛けし、出来ない方にはスタッフが手伝い口腔ケアをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排尿チェックを行い、尿意のない利用者様にも時間を見計らって声掛けすることによりトイレでの排泄が出来るように支援している。リハパンへの移行は極力控え、布パンツでの対応を支援している。 | 自立度の高い利用者は見守りに徹し、介助の必要な場合においても、排泄記録を参考に誘導に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事や水分・運動に気を付けて、疾病予防に取り組んでいる。薬の関係等で便秘になりやすい方については、排便を促す薬が主治医から処方され使用されている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日と入浴時間は今のところホームの日課内で決められているが、安心して入浴していただけるよう、安全面への配慮も心掛けている。 | 隔日の入浴を基本とし、利用者の体調や気持ちを考えながら支援を行っている。また、リフト浴を導入し重度利用者への対応をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の種類、重、飲み方等が変わった時は詳細に記録し、申し送りを行い、全職員が理解している。薬は服薬時、本人様に手渡し、きちんと服用されているかの確認をしている。また、症状の変化の観察にも努めている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 得意分野で一人ひとりの力を発揮していただけるよう、やっていただけることはやっていただき、感謝の言葉を伝えるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 全員の希望に応えることは出来ないが、みんなでお出かけしたり、一緒に買い物へ行ったりすることもある。散歩へは本人様の体調を見ながら支援している。もっとどんどん本人様の希望を把握し出掛けられるようにしていきたい。 | 一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせてお買い物、喫茶店、外食等や季節の行事は積極的に外出を行っている。また利用者誰もが楽しめる行事を企画し、外出を楽しめるよう支援を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 小口現金として施設でお預かりしている。喫茶店利用時等は利用店にお願いし、一人ひとり会計支払いが出来るよう支援しているが、状況によってはスタッフが支払いの対応をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 入居時、本人様・家族様の希望や要望を伺い、それに沿って支援している。直接本人が電話を使用することはあまりない。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | キッチン・フロアはいつもオープンになっている。どこからでも季節の樹木が見られ、春にはフロア、キッチン、浴室、居室のどこからでも桜を見ることができる。夏には蝉の鳴き声、蛙の鳴き声、秋には虫の鳴き声も聞こえ利用者様の会話がはずんでいる。 | 清掃が行き届いた共用の空間は、日光が差し込み非常に明るい印象である。訪問調査当日は、利用者同士おしゃべりをしたり、洗濯物をたたんでいたり、利用者が思い思いの時間を過ごしていた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 昔のことを思い出していただけるよう、懐かしい本・雑誌コーナー(ミニ図書館)を設けている。利用者様が楽しくおしゃべりされる陽だまりの場所がある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時、新しく購入して持ってきていただくのではなく、今まで使っていた馴染みの物を持ってきてくださることが安心して生活していただけることになるとお伝えし、居室の工夫をしている。 | 個々に馴染みの物を持ち込み、個性のある居室となっている。中にはパソコンを持ち込み、インターネットを楽しんでいる利用者もいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者様の一人ひとりが分かる力を見極め、必要に応じて目印をつけたり、物の配置等に気をつけている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2394800011 | | |
| 法人名 | 株式会社 ヒビキ | | |
| 事業所名 | グループホームひびきの家豊明 (ユニット2) | | |
| 所在地 | 豊明市沓掛町東門22-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年 1月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年10月15日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kajokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2394800011-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------|
| 評価機関名 | 株式会社 中部評価センター |
| 所在地 | 愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F |
| 訪問調査日 | 平成24年12月18日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームのいい場所より、公園の緑をながめ、春には桜を楽しみ、すぐとなりの乗馬クラブの馬を見ることができ、のどかな環境の中で、のんびりとその人らしい生活を送っていただいています。今年4月より増設ユニットの営業が開始されました。増設ユニットではワ浴を設置し、より安全で快適な入浴サービスの提供が可能となりました。大家族になりましたが、1人一人の状態に合わせたキメ細かい介護を行いたいと考えています。昨年度に引き続き、常勤の薬剤師による服薬管理体制・常勤の柔道整復師の監修のもと、より質の高い機能訓練を提供していきます。スタッフも家族様の愛情に負けない気持ちで支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホーム内に浅田次郎著「終わらない夏」から引用した文を掲げ、事業所の理念として実践している。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に参加し、町内の行事夏祭り等に参加している。町内子供会による獅子舞などがホームに回ってくれるようになった。今後、ホームにおいて地域の方と交流ができるような行事を取り入れたい。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方との交流を通して、利用者様の暮らし等を知って頂き、理解を得るようになってきたと思う。今年度は行政の講師を招いて、「認知症サポーター講習会」を実施し、認知症の理解・啓発を行った。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者様の日々の生活やケアについて、又、ホームの行事、事故報告などを行い、家族様はじめ出席者の方から色々な意見を頂き、施設運営に生かしている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市役所に赴くようにしている。市担当者から、介護福祉事業などの情報提供をして頂いている。その情報は回覧で全職員へ周知している。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 代表者、職員全員が身体拘束をしないケアを学び、また、具体的な行為について正しく理解してケアに取り組んでいる。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 積極的に勉強会等を開いてはいないが、日常のケアにおいて虐待の防止等の情報をもとに話し合いの場を設けて虐待防止の徹底に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 今年度、研修会に参加する機会をもてた。また、行政施設等の担当者とお話する機会があり、制度等への理解が深まった。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居申込・本人面接・契約の段階に応じて話を伺い、説明を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族様来設時に利用者様の生活等について近況報告を行い、意見要望をいただいている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者は直接職員より意見や提案ができるよう心がけている。申し送り帳・アンケート用紙等を用いて意見、提案、要望等を問いかけたり聞いたりしている。3ヶ月に一度全体ミーティングの機会を設けている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は頻繁に現場に来ており、個別職員の業務状況などを把握している。また職員が働きやすいように職場条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修に情報を収集し、職員の段階に応じて受講できるよう計画を立て実施している。また他の講習会等も回覧し、希望者を募ったりしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 定期的な交流の計画はないが研修会等の参加により交流する機会をつくり、サービスの質の向上を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前面接での本人様からの情報収集は大切にしており、そこで得た情報は全職員が共有し、入居時の不安やストレスを少しでも軽減させるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 特別な対応が必要な方には可能な限り柔軟な対応を行っている。こちらからの提案と利用者様・ご家族の要望を考慮して意思疎通を行いながら介護にあたっている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 支援する側、支援される側という意識は持たず、お互いが協力し合い和やかな生活ができるよう、場面づくり、声掛けをしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 常に一緒に本人様を支えていくことを大切にしている。家族様の協力によって成り立つものと考えているため、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けホームのこのような姿勢や考えをお伝えするようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族様や友人知人の来設時はホーム全体で歓迎し、楽しい時間を過ごしていただけるよう心掛けている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士の関係について、情報連携し、全職員が共有できるようにしている。また、心身状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので注意深く見守るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後に電話で近況報告や面会、直接お会いしてお話することもある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の生活や会話の中から本人様の思いや希望等を感じ取り見つけ出し把握するようにしている。利用者様から自発的な表出が難しい場合には職員側からアプローチする等、一人一人に合わせて工夫している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の面接での情報収集、家族様に作成して頂く情報提供書を基に把握している。また利用者様本人との会話から得ることもある。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 1日の様子を介護記録または介護詳細記録に記録し、全職員が把握し情報の共有ができるようになっている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎日の生活の上で、全職員が気付きとして出し合う、本人様より得た希望や家族様からの意見・要望を反映させ本人様に適した介護計画になるように配慮している。サ最近ではご家族から要望を頂ける機会が増えてきた。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録に利用者様一人一人の体調や出来事、声等を記録している。また各利用者様の介護記録の実施状況をみて介護計画の見直しをしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人様、家族様の状況に応じて通院等の必要な支援は柔軟に対応している。運営者(代表者)が薬剤師であるため薬の管理は対応できている。また看護師、准看護師により健康管理が対応できるようになっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議案において民生委員の方、また、地域の方より地域に関する情報(行事等)をいただいている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人様や家族様が希望するかかりつけ医となっている。また通院や受診は本人様や家族様の希望に応じて対応している。基本的には家族様対応をお願いしているが不可能な時は職員が代行している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師を配置しており、利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護師がいない時は、介護職員の詳細記録等を基に確実な連携を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された場合には出来る限り面会に行きたいと思っている。退院後、家族の了解を得たうえで、情報提供・医療機関との連携を図りたい。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人様や家族様の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り安心して納得した最期が迎えられるように意思を確認しながら取り組んでいる。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者様の急変や事故発生に備えて、全職員に応急手当や初期対応の訓練を実施している。今後、勉強会の機会を増やし急変時の対応がしっかり行えるようにしたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回(4月・12月)、消防署の協力で避難訓練を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 本人様の気持ちを大切にし、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉がけをするよう努めている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人ひとりに合わせ、本人様が答えやすく選びやすいよう働きかけをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。(食事と入浴時間はおおまかな日課となっている) | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 理美容においては、2ヶ月に1回ホームに来てもらっている。衣服については、基本的には本人様の意向で決めていただいている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様の食べたい物を毎日ということとはできないが、誕生日等行事において希望を聞いたり一緒に作ったりすることもある。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量(栄養摂取量)や水分摂取量を個人に合わせて確認できるようにしている。定期的に体重測定も実施している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、自分で出来る方には声掛けし、出来ない方にはスタッフが手伝い口腔ケアをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排尿チェックを行い、尿意のない利用者様にも時間を見計らって声掛けすることによりトイレでの排泄が出来るように支援している。リハパンへの移行は極力控え、布パンツでの対応を支援している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事や水分・運動に気を付けて、疾病予防に取り組んでいる。薬の関係等で便秘になりやすい方については、排便を促す薬が主治医から処方され使用されている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日と入浴時間は今のところホームの日課内で決められているが、安心して入浴していただけるよう、安全面への配慮も心掛けている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の種類、重、飲み方等が変わった時は詳細に記録し、申し送りを行い、全職員が理解している。薬は服薬時、本人様に手渡し、きちんと服用されているかの確認をしている。また、症状の変化の観察にも努めている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 得意分野で一人ひとりの力を発揮していただけるよう、やっていただけることはやっていただき、感謝の言葉を伝えるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 全員の希望に応えることは出来ないが、みんなまで外食したり、一緒に買い物へ行ったりすることもある。散歩へは本人様の体調を見ながら支援している。もっとどんどん本人様の希望を把握し出掛けられるようにしていきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 小口現金として施設でお預かりしている。喫茶店利用時等は利用店にお願いし、一人ひとり会計支払いが出来るよう支援しているが、状況によってはスタッフが支払いの対応をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 入居時、本人様・家族様の希望や要望を伺い、それに沿って支援している。直接本人が電話を使用することはあまりない。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | キッチン・フロアはいつもオープンになっている。どこからでも季節の樹木が見られ、春にはフロア、キッチン、浴室、居室のどこからでも桜を見ることができる。夏には蝉の鳴き声、蛙の鳴き声、秋には虫の鳴き声も聞こえ利用者様の会話がはずんでいる。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 昔のことを思い出していただけるよう、懐かしい本・雑誌コーナー(ミニ図書館)を設けている。利用者様が楽しくおしゃべりされる陽だまりの場所がある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時、新しく購入して持ってきていただくのではなく、今まで使っていた馴染みの物を持ってきてくださることが安心して生活していただけることになるとお伝えし、居室の工夫をしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者様の一人ひとりが分かる力を見極め、必要に応じて目印をつけたり、物の配置等に気をつけている。 | | |

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|--|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 35 | 火災時の初期消火・避難訓練は年二回実施しているが、地震・台風等による水害対策に対する備えが不十分だと考えられる。 | 洪水想定地域や避難場所を示した「洪水ハザードマップ」を利用し、避難場所・避難経路等について日頃から情報収集しておく。 | ・「洪水ハザードマップ」の入手 ・全体会議を利用し、職員に周知する。 ・食糧備蓄等について検討する。 | ヶ月 |
| 2 | 28 | 利用者様の高齢化に伴い、活動量の低下が認められる。 | 現在行っている「機能訓練」をより充実させる。 | ・運動メニューの充実、多様化。 ・コミュニケーションを通して楽しみながら体を動かす。 | ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。